

『第63回日本選手権競輪(GⅠ)』の 選手選考基準・勝ち上がりトーナメント等について

1年間の賞金獲得額上位者 162 名が「ダービー王」目指して激突

『第63回日本選手権競輪』 出場選手選考基準

- ① S級S班在籍者。
- ② 日本選手権競輪に3回以上優勝した者(開催時S級1班に在籍)。
- ③ 第23回共同通信社杯秋本番(GⅡ)の決勝競走において第1位から第3位となった者。
- ④ 平成21年1月から平成21年12月までの期間における賞金獲得額上位者から順次選抜

『特別選抜予選競走』 出場選手選抜基準

- ① S級S班在籍者。
- ② 選考期間における賞金獲得額上位者から順次選抜する。

日本選手権競輪は別名「競輪ダービー」と呼ばれるGIの中でも最高峰の開催で、競輪界唯一の6日制で行われます。出場選手は昨年1年間の賞金獲得額上位者を中心に選考され、「特選」の出場選手も賞金獲得額順に選抜されます。プロの証である「賞金額」で決定される、非常にわかりやすくシンプルな選考基準となっています。

他の開催とは一味違う！ダービーならではの「豆知識」を大公開！

○開催中 選手にお休みの日がある!?

通常の3日制・4日制の開催では、選手は開催中毎日レースに出走します。しかしダービーでは、2日間にまたがる種目(特選・一次予選・二次予選等)があるため、一部の選手にはレースに出走しない日が発生します。例えば第1日の特別選抜予選で1着の選手は、次に第4日のゴールデンレーサー賞に進出しますが、その間の第2日・第3日は不出走日となります。不出走日の選手は、同県選手の自転車を取りに行ったり、ローラーで軽く練習を行うなどリラックスして過ごしながらも、ライバルのレースを見て走り方を研究するなど気持ちは次の対戦へとすでに向かっています。

○最終日まで走れない選手が63人もいる!?

ダービーの参加選手は162名です。一方で最終日は11R(99名)の選手しか出走しません。実に63名もの選手が、最終日を迎えることなく競輪場を後にします。他のGI・GII開催でも最終日まで走れない選手がいる場合がありますが、その人数はわずか9名にとどまります。63名もの選手を強制的に帰郷させる開催はダービーだけです。最終日まで生き残るためには、敗者戦で少しでも上の着をひたすら目指すしかありません。決勝戦を目指す勝ち上がりも熱いですが、最終日まで出走するための過酷なサバイバルレースも、実は静かに熱い火花を散らしているのです。

○欠場があっても補充が一切ない!?

通常の開催であれば、落車等で参加選手が欠場した場合、外部から補充選手を充当します。しかしダービーの場合は、万が一多数の欠場があったとしても補充選手は一切充当しません。補充選手の代わりに、上記の「帰郷選手(63名)」が帰郷せずに出走することにより、欠場を埋める形となります。これは「GI 最高峰の開催であるダービーに出走できるのは、選考によって選抜された選手のみ」にすべき」という思想を制度に反映したもので、この形式が取られる開催はダービーとオールスターだけとなっています。

競輪界唯一の6日制勝ち上がりトーナメント！ G1 最高峰のレースをたっぷりとお楽しみください！

